

別府市就学前の子どもに関する教育等協議会

第4回議事録概要版

- 日 時 令和3年5月10日（月）15時～16時15分
- 場 所 別府市上下水道局 3階大会議室
- 出席委員 山岸委員 仲嶺委員 伊藤委員 姫野委員 宮崎委員 園委員 薬丸委員
- 事務局 柏木教育部長 田辺市民福祉部長 稲尾教育次長 北村学校教育課長
奥教育政策課長 宇都宮子育て支援課長 松丸学校教育課参事 吉田教育政策課参事
内田子育て支援課参事 田原子育て支援課補佐 佐藤子育て支援課補佐 石崎

■傍聴者 4名

■報道関係 3社

■次第

1 開会

- ・令和3年度事務局紹介

2 議事

(1) 第3回協議会協議の振り返り **資料1**

(2) 別府市就学前の子どもに関する教育等協議会報告書（案）について

協議会報告書（案）

(3) その他

○次回について

- ・日時：令和3年6月9日（水）15時開会（予定）
- ・場所：別府市上下水道局3階大会議室

3 閉会

<参考資料>

- ・第3回協議会議事録概要版

◆ 議事

(1) 第3回協議会協議の振り返り

○事務局から説明

(2) 別府市就学前の子どもに関する教育等協議会報告書（案）について

○協議

＜事務局から、報告書（案）P1～P3の説明・委員から異論なし＞

＜事務局から、報告書（案）P4～P6の説明＞

委員長：報告書（案）はこれまでの3回の会議で出てきた意見をまとめたということである。意見はないか。

委員：協議会において、それぞれの立場から話が聞けてよかった。保育所の話をもう少し聞きたかった。保育所における年長児の動向を聞ければよかった。

委員：一校一園制は時代の流れとともに、厳しいという話だった。これまで、PTA 連合会で、市立幼稚園を存続してほしいと話をしてきた。もし減らされるのであれば、預かり保育や複数年保育の充実をお願いしたい。市立幼稚園が減らされていく地域の方も、困らないような配置にしていきたい。

委員：ずっと一校一園制の存続を要望してきたので、市立幼稚園がなくなりそうだと感じている。存続する園に関しては、預かり保育がないと幼稚園に預けられない人が多い。子育て支援をしっかりとしてほしい。

委員長：子ども達へよい保育をするためには、ある程度の人数は必要である。全体の数が半分以下であることを踏まえ、統廃合はやむを得ないという話だった。存続する園については、より充実した園にする必要がある。そうすることで、統合される地域の方たちも、了解してくれるのではないか。

委員：子どもが成長できる、学びが充実する集団づくりという点においては、統合するのはよいと考えている。本学の関連の保育所には5歳児が1人しか入所していない。別府市には、5歳児になったら幼稚園に就園するという流れがある。複数年保育を考える時に、その関連を考えないといけない。もう一つは、統合した時に公立施設として、子育て等の拠点としての役割をどのように担うのか。保育所や子育て支援センター等、様々な施設との関連があると思うが、それぞれの役割が大事になってくるのではないか。

委員：報告書（案）に、「新たな方向性を示していく時期である」と書かれているが、

本当にそのような時期である。公立施設としての役割をどのように果たしていくのか、保護者の方の気持ちをどう汲み取っていくのか。国の政策に沿う形で仕組みを、どのようにつくっていくのか。そういったことを合わせて、新しい方向を出す必要がある。

委員：現場で働く者としては、新しい方向性の中で精一杯がんばりたい。保護者の方は、地域に幼稚園があって、一校一園制がよいという思いが強い。まとめの部分にその思いが入れられるとよい。

委員長：市立幼稚園が新しい方向を探るということでは、皆さん一致している。私立幼稚園との関係を維持しながら、公立としての役割をどのように果たしていくのか、課題がいくつかある。それを『新しい方向性を探る』ということで、ここでまとめている。具体的な話は、今後しかるべきところで探っていただきたい。

<事務局から、報告書（案）P6～P9の説明>

委員長：第3回までの話し合いの結果を総合すると、こういう意見が出て、このようにまとめることができると事務局がまとめていますが、いかがでしょうか。

委員：認定こども園、保育所、幼稚園で、幼児教育無償化のことが絡んでくるのではないか。

委員長：無償化になったときのことについて、もう少し詳しくあった方がわかりやすい。

委員：報告いただいた内容で、そのとおりでよい。それぞれの項目の仕方については、それぞれあると思う。方法論については個別に考えればよい。市としてトータルで水準を上げていくには、「どこがやればよい」ということではなく、みんなでやっていく必要があると思う。そういう意味では、報告書に記載されていたが、行政側の部署の一元化が必要になると思う。

委員：報告書について、協議された内容になっている。子どもたちにより状態で教育・保育を提供できるとよい。今後の方向性等が出てきたら、その中でがんばりたい。

委員：園にきた子どもは、その園が責任をもって、しっかり教育していかないといけない。その園で困ったことがあれば、みんなで話し合いながら、よい方向に進めて行けるような体制をとれるとよい。私立幼稚園は2園を除いて、全て施設給付になった。子どもが少なくなるというのも、私立幼稚園の先生たちは危惧

している。施設型給付になることで、市立と同じ考えで皆さんが来ることができるようになるのではと思う。私立幼稚園は保育料が高いというイメージがあったのが、和らいでいくのではないかと。しかし、皆さんになかなか浸透していかないのが一つ問題である。さらに、市立幼稚園、保育所と話し合える場があるとよい。そうすることで、それぞれの解決策が出てくるのではないかと。

委員：人員確保は早く進めてほしい。市立幼稚園だけではなく、特別支援教育は、特に地域性に密着している。療育が必要な子どもには、一人加配の先生がいた。担任ともう1人の補助がいると全然違うと聞いていたので、どこの保育園も幼稚園においても、人員確保を進めてほしい。

委員長：方向として、大きな流れ、あるいは骨組み、仕組みとして、これでよいとなれば、次に具体化という形を、市の方で作成するか、あるいは専門家の方を呼んで作成となるだろう。その際、市立と私立のすり合わせが必要だろう。市立の方は一年保育だけだったので、そこを少し変えていきたいとあった。そこも話し合いによって決めていかないといけない。

委員：別府市の子どもの保育や学びのところをもう少し深く話さないといけない。幼稚園は保育所と話し合いがあまりない。これは実施していくべきである。保育所で困りがあるのも聞いているので、その困りを聞いていきたい。また、特別支援教育について、アドバイスをもらえるとよい。先生たちに任せているところもある。助言してもらえる場所や話し合いがあると良い。他のところも同じ状況だと思うので、これからいろいろな場で、もっと話せると良い。

委員：まとめの構成はこれでよいと思う。ここで具体的なことは言えないだろうが、市立幼稚園に預けていた保護者、これから預ける子どもや保護者が困らないように、行政の方と連携して進めてほしい。

委員：認定こども園は、幼稚園型、保育所型、幼保連携型とある。それも含めて、認定こども園と表記しているのか？幼保連携型と幼稚園型、保育所型は異なると感じている。認定こども園に移行する施設が、新制度を利用するか、旧制度を利用される場合があると思う。そのような部分を含めて書かれているのか。あまり細かく書く必要はないと思う。ひとくくりで『認定こども園』としていると思って読んでいくとよいのではないかと思った。

委員長：冊子ができた時に、保護者も見ると、ある程度わかる内容にしたほうがよい。また、他市と比べると、別府市は認定こども園の数は少ない。もし、別府市として力を入れて進めるなら、認定こども園を知らない人が多いのではない

かという意見もあったので、アピールする必要があるのではないかと。まとめの中身はこれでよいか。今の書き方としては、こういうことを話し合いました、こんな意見が出ました、その意見の全体をまとめるとこうなります、市としてこのような方向を探りたい、と方向を探るところまで書かれていると思うのですが。何かあればお願いします。

委員：「保育所から認定こども園への移行が難しいのは、施設が狭かったり、定員が少なかったり」と書かれてある。それは、一部であって、それだけではないと思う。日出は保育所がほとんど認定こども園である。なぜそうなったのか。公立も私立も移行しているのは、なぜか。また、「養護の部分が入ってくるので、バランスに悩まれるのではないかとあるが、公立が悩むのか。先ほど言われたように、幼稚園型、幼保連携型は違う。認定こども園のところをひとまとめにすると、違和感がある。

事務局：別府市の子ども・子育て支援計画において、認定こども園について言及しているが、「普及促進を図る」としか書かれていない。今回、まとめのところで普及促進の考え方をしっかり政策的に示していくべきと記述している。皆様から意見をいただき、別府市の実情に照らした上で、今後どのような種類の認定こども園を設置するのか、どのように普及を図っていくべきかというところを、これから教育委員会と市長部局で考えていく必要があると感じた。まとめでは、認定こども園の類型を明示せずに、ざっくりとした書き方となっている。また、保育所の敷地が狭いなどの意見もあったが、その部分の議論がし尽くされていない。委員長から「これが事始めである」とあったように、今日の意見を踏まえて整理していきたい。

委員：認定こども園の教育と養護（保育）のバランスについて。幼稚園では、今まで子どもが帰ったあとに、次の保育の準備期間や記録、研究に費やす時間を確保できていた。その時間に保育が入ってきたときに、どのように幼児教育に関する研究を進めるのかというところの悩みが出てくると思う。そのような意味での、現状から研究や準備の時間が取れなくなるという悩みも出てくるという意図もあり、話をした。

委員長：今後、方針をだして、それを具体化する。協議の中で、別府市の就学前の教育の現状がわかってきた。これに沿って、未来の就学前教育のあり方を探らないといけない。今日の議論で新しく付け加わったと思うが、次の段階のところにも反映していただければと思う。この報告に基づき、市として教育委員会と子育て支援課が歩み寄り、市としての方針を決めていただくという形になる。

事務局：今回の協議会では具体的な計画を策定するまでの議論はしていないので、いただいた意見を基に、これから基本的な考え方を報告書でまとめたい。本日の協議内容も反映していきたい。今回は教育委員会が、市立幼稚園の課題を起点として、就学前教育全体の問題を俯瞰するという考え方で取り組んだ。そのため、保育所の議論は深堀りできていない。公と民との役割と、同時に、幼稚園、保育所という施設種別があるわけだが、その垣根をできるだけ低くすることが大切である。別府市の役割としては、市立幼稚園としての行政という立場もあるが、子ども子育て支援の全体プランをプランニングするという行政の役割がある。後者の方の視点をもう少ししっかりもっていかないといけないと、協議会を通じて感じた。

(3) その他

○次回について

- ・次回は6月9日（水）15時から予定。次回は、報告書の修正後、教育長へ報告書を提出します。